

JAZZを生かしたまちづくり

音楽の力で進める地域の活性化と復興



うちだ やすひろ
内田 康宏

おかざき
岡崎市長(愛知県)



さとう えいいち
佐藤 栄一

うつのみや
宇都宮市長(栃木県)



宇都宮市

倉敷市

岡崎市

枚方市



いとう かおり
伊東 香織

くらしき
倉敷市長(岡山県)



ふしみ たかし
伏見 隆

ひらかた
枚方市長(大阪府)

司会・コーディネーター

ほその すけひろ
細野 助博

中央大学名誉教授

住民の生活に潤いと豊かさを
もたらす音楽。特に、ジャズは、
地域振興やまちのにぎわい創出、
市のイメージ向上にもつながる
ことから、有力な文化的アイコ
ンとして、かねてより注目され
てきました。野外でのフェステイ
バルをはじめ、市民参加型の
ジャズイベントを民間団体と連
携して開催する自治体も多くあ
ります。

座談会ではジャズを生かした
まちづくりを推進する都市自治
体にご出席いただき、取り組み
の内容、行政と民間団体との協
働、地域の活性化効果などに
ついて、幅広くお話しいたぎま
した。

(本文中の役職名・敬称は一部省
略しています)

ジャズのまちを官民で演出する

細野 ジャズを含む音楽は、私たちが心豊かな生活を実現していく上で欠かすことができない文化的な資産であり、同時に地域に活力をもたらす重要な地域資源でもあります。

それでは各都市ではジャズをどのようにまちづくりに活用されているのか、地域経済やコ

宇都宮市はジャズをはじめ、
地域資源が豊富。
それらの資源を組み合わせ、
効果的に観光振興を図りたい。



佐藤 栄一
宇都宮市長(栃木県)

ミュニティに対してどのような効果を与えているのか、行政の関与のきっかけなども含めて具体的な取り組みについてお話しいただきたいと思っています。

佐藤 宇都宮市は世界的アルトサクソ奏者の渡辺貞夫氏をはじめ、多くのジャズプレーヤーを輩出しているまちです。市内には20カ所以上のライブ会場があり、日ごろからジャズライブが盛んに行われています。宇都宮市では、こうした地域に根付いたジャズを貴重な文化資源と捉え、幅広い軽音楽文化の振興を図るとともに、中心市街地の活性化や観光振興につなげる取り組みを進めています。

その推進組織として、平成13年には市民団体、商工会議所、商店街連盟など12団体で構成する「うつのみやジャズのまち委員会」が立ち上がりました。以来、市が事務局を担いながら、市民や子どもたちにジャズに親しんでもらうための「ジャズ教育普及事業」や、ジャズの演奏機会や鑑賞の場の創出を通じて、音楽に取り組み人材・団体の育成などにつなげる「ジャズライブ育成事業」を官民協働で推進しています。

「ジャズライブ育成事業」の一環として多数のジャズイベントが市内で開催されていますが、それ以外に、実行委員会方式のイベントも活発に展開されています。中でも北関東最大級の集客力を誇るのが、「宇都宮市民芸術祭 軽音楽祭 ミヤ・ストリートギグ」と「ミヤ・ジャズイン」です。特に、プロ・アマを含め約70団体が参加する「ミヤ・ジャズイン」は延べ15万人が訪れる人気イベントとして、中心市街地の活性化や観光振興に大いに寄与しています。

内田 岡崎市には、戦後の日本のジャズの黎明

期から多くのミュージシャンを支え、ジャズ界に多大な影響を与えた市民がいました。長年、市内で開業医として活動された故・内田修氏です。貴重なレコード、雑誌、オーディオ機器などを所蔵されていたコレクターでもありました。これらのコレクションは生前、本市に寄贈され、中心市街地にある公共施設内に設置された「内田修ジャズコレクション展示室」で、常時公開されています。この内田氏の存在もあり、岡崎市にはジャズの専門性に通じた、玄人はだしの愛好家が少なくありません。

一方で、このようなジャズを文化資源として、純粹に楽しみながら、まちの活性化を実現しようとする人々もいます。平成18年、そうした方々が中心となつて「岡崎ジャズストリート」を開催し、以来、毎年開催されるようになりま



小学生から高校生までが在籍し、定期コンサートなども行う「うつのみやジュニアジャズオーケストラ」(宇都宮市)

ジャズイベントの
持続可能性を考えると、
人材の掘り起こしや
協力者の確保も、
重要な要素になってきます。



内田 康宏
岡崎市市長(愛知県)

した。期間中は岡崎城二の丸能楽堂、シヨッピングモールなど、市内各所でジャズライブが行われ、まちはジャズ一色に染められます。

また、普段から市役所をはじめとする公共施設や駅、商店街や喫茶店などでジャズ放送が流されているほか、地域のコミュニティFMでも、毎週、ジャズに関する情報が発信されるなど「ジャズの街岡崎」の認知度向上に向け、官民一体で取り組んでいます。

伏見 枚方市には、京阪電車「枚方市駅」から隣

の「枚方公園駅」にかけて、かつての宿場町の面影を残した、歴史的な街道があります。豊臣秀吉によって築かれた淀川左岸の堤防道「文祿堤」(別称、太閤堤)を起源とした京街道です。江戸時代に入ると、この街道は東海道の延長部として宿場が置かれ、「枚方宿」としてにぎわいました。

この歴史的資源を生かして、街道沿いの岡本町公園や周辺のカフェやバーなどを会場に開催されるのが、「枚方宿ジャズストリート」です。宿場町の街並み再生などを目的に、地元住民の皆さんが中心となって発足した「枚方宿地区まちづくり協議会」が地区の活性化を目的に始めたジャズイベントで、毎年6月のプレイベントと11月の本イベントの2回にわたって実施されます。

現在、この「枚方宿ジャズストリート」はまちづくり協議会から独立した形で展開されていますが、気軽にジャズの生演奏を聴くことができ、貴重な機会として人気を博しています。枚方市は、京都や大阪のベッドタウンとして発展した土地柄、多くの市民が身近な地域の中で文化芸術を楽しみたいという思いも強かったのでしょう。昨年の本イベントには初日は11会場62団体、2日目は15会場77団体が参加するなど、規模も大きくなり、約1万人もの方々に足を運んでいただきました。

伊東 昨年7月の西日本豪雨災害におきましては、本日ご出席された市長をはじめ、全国の市長に大変なご支援をいただきましたことに、まず心から感謝を申し上げます。この豪雨災害で特に大きな被害を受けたのが、市の北西部にある真備地区です。現在もおお、7000名を超える住民が仮設住宅での生活を余儀なくされていますが、倉敷市ではこの3月



世界有数のジャズコレクションを堪能できる「内田修ジャズコレクション展示室」(岡崎市)

に真備地区復興計画を策定し、今年を「復興元年」と位置付け、各種取り組みを進めています。そうした中、この真備地区から明るいニュースが届きました。地域で40年近くジャズ喫茶を営まれてきた方が、皆さんからの後押しを受け、浸水したお店のリフォームを進め、今年の5月に本格的に営業を再開されました。真備地区の方々が集い、語り合う場が復活したことは大変明るいニュースです。

倉敷市には、以前からさまざまなジャズの素地があります。半世紀以上の歴史あるジャズライブハウスや、同じく半世紀以上前から活動する本格的ジャズオーケストラによる「倉敷サマージャズフェスティバル」、さらに、平成10年からは「倉敷音楽祭」の公演の一つとして、県内のアマチュアジャズバンドが集結する最大の



野外でのジャズライブが好評の「枚方宿ジャズストリート」(枚方市)

イベント「くらしきビッグバンドフェスティバル」も開かれています。加えて、平成21年から、美観地区を中心に、有志による住民手作りのジャズイベント「倉敷ジャズストリート」が実施されています。

運営団体との役割分担を明確に

細野 それぞれの都市でジャズイベントが活発に行われていることが分かりました。それでは、行政として、イベントの運営団体と協働する上でどのように関係性を構築されているか、お聞かせください。

佐藤 宇都宮市ではできるだけ運営団体の自主性や主体性に委ねる、という姿勢を基本にしています。官民一体となってイベントを盛り立てるという意識を共有しながら、行政としてはあ

まり運営団体を縛ることなく、自由に企画・運営を担っていただいています。

内田 平成24年、ジャズを愛する市民活動団体で結成した「ジャズの街岡崎発信連絡協議会」の事務局は市（市民協働推進課）が担っているなど、本市でも官民一体の意識は強いですね。「岡崎ジャズストリート」では、愛知県警察音楽隊の演奏の下、私自ら横断幕を持って市街地を行進するなど、行政も積極的に参画しています。

芸術文化に触れる
機会を増やす
「アウトリーチ活動」に
力を入れたい。ジャズはその
有効なコンテンツの一つです。



伏見 隆
枚方市長(大阪府)

伊東 「くらしきビッグバンドフェスティバル」については、市民の文化活動発表の場という位置付けのため、市や倉敷市文化振興財団が主催者として運営を担っている一方で、「倉敷ジャズストリート」に関しては、市民主体の主催団体が、自由な運営をされています。イベントの性格に応じて、支援内容や付き合い方はさまざまですが、いずれにしても運営団体とは良好な関係を築くことができていると思います。

伏見 市長に就任してから、市から補助金を交付している全ての事業を見直す中で、「枚方宿ジャズストリート」に関しては、それまで交付していた補助金を廃止したという経緯があります。運営団体が市民主体の活動として完全に自立し、資金集めなども自助努力で行う方が、持続可能なイベント開催につながるかと考えたからです。ただ、行政としても共にイベントを盛り上げ、地域活性化を図りたいという思いが強くなりますので、市が連携してできることとして、広報などに当たっています。

佐藤 宇都宮市では、ジャズプレーヤーをはじめ、さまざまな方にボランティアで事業に関わっていただいています。これが宇都宮のジャズ文化の下地にもなっていますので、屋外ステージへの全面屋根の設置など、皆さんが活動しやすいようなサポートは、市が担っています。要は役割分担が重要ということですね。

内田 「岡崎ジャズストリート」がスタートするとき、「岡崎のような地方都市で、ジャズイベントはうまくいくものなのか」と私自身も不安を抱いたことを覚えています。しかし、回を重ねるごとに多くのジャズ愛好家に参画、協力いただくことになり、内容もより充実したものに

真備地区での
ジャズイベント再開を、
「復興のシンボル」に。
再来年には真備から元気な
姿を全国に発信したい。



伊東 香織
倉敷市長(岡山県)

なっていました。イベントの開催自体が、人材の掘り起こしにつながったように思います。持続可能性を考えると、こうした協力者の確保も、重要な要素になってくると思います。

ジャズの集客効果を観光に生かす

細野 多くの集客があるジャズイベントは、観光振興や地域活性化にも効果を発揮すると思いますが、いかががでしょうか。

佐藤 宇都宮といえば「餃子」が有名ですが、「カ

クテル」も市の有力な観光資源の一つです。さらに、国際的な自転車ロードレース「ジャパンカップサイクルロードレース」の開催地でもあり、今年は3人制バスケットボールのクラブチーム世界一決定戦も市内で行われます。

ジャズ単独でも観光振興などに有効ですが、より大きな成果を上げるためには、さまざまな資源を組み合わせる発想も重要になってくるでしょう。宇都宮市では特に、宿泊旅行者数の増加が課題となっていますが、その解決のためにも、ジャズやカクテルを生かした夜の観光の魅力を高めていきたいと考えています。

内田 岡崎市はものづくりのまちとして発展してきましたが、私が市長に就任してからは、「観光産業都市」として、地域の歴史的な資産や文化資源、豊かな自然景観を生かした観光施策にも力を入れてきました。特に、近年は中心市街地を貫流する乙川の河川空間を生かしたまちづくりを進めており、そのシンボルとなる乙川人道橋(さくらしろはし)も整備されます。

まちなぎわいが求められる中で、ジャズを積極的に活用し、相乗効果を図りながら、活性化につなげていきたいと考えています。

伊東 「倉敷ジャズストリート」を始める際に、ジャズイベントを美観地区で実施して、多くの人に受け入れられるか、心配する声も聞かれました。しかし、実際に開催してみると大変好評で、観光振興にも効果があることが分かりました。イベントのフィナーレには、美観地区のシンボルである「中橋」の上でセッションが行われますが、毎回、倉敷川河畔は多くの観光客で埋め尽くされます。

相乗効果はそれだけではありません。ジャズ



美観地区一帯がJAZZで染まる「倉敷ジャズストリート」(倉敷市)

イベントで倉敷市を訪れた人の中には、国産ジーンズの専門ブランド店が集う「児島ジーンズストリート」に足を運んでくださる方も多く、地場産業の振興にもつながっています。

伏見 枚方市はかつて大菊人形展で全国に名を馳せた菊が有名なまちで、市の花にも選定されています。「枚方宿ジャズストリート」の11月の本イベントの時期には、まちづくり協議会が京街道沿いに約200鉢の菊の花を並べる「街道菊花祭」を開催していることから、独特な雰囲気醸成されて、市民からも評判が良いですね。

また、枚方宿地区のイベントとしては、毎月第2日曜日に開かれる定期市「枚方宿くらわんか五六市」も人気です。そこで、「枚方宿ジャズストリート」も同時開催にされることで、さらなるにぎわいの創出につながっています。

ジャズがもたらす地域文化の振興

細野 最後に、ジャズが文化芸術の振興に果たす意義や取り組みについてお聞かせください。

佐藤 子どもたちの中には、勉強ができる子もいれば、スポーツが得意な子もいる。音楽が大好きな子もいる。それぞれの能力を伸ばしてあげることが大切です。

その観点から、宇都宮市では小学・中学校にジャズバンドを派遣し、体験授業を行う「ふれあい文化教室」や、中学校の吹奏楽部に講師を派遣し、ジャズの演奏法などを学ぶ「学校普及ジャズ」など、子どもたちを対象とした教育普及事業に力を入れています。

また、次代を担う人材育成として、小学・中学・高校生による「うつのみやジュニアジャズオーケストラ」を結成し、定期コンサートの開催や市の各種イベントに継続的に参加してもらっています。

伊東 倉敷市では、もともと中学・高校の吹奏楽部の活動がたいへん盛んで、市のさまざまなイベントでも生徒の演奏の機会が多くあります。子どもたちがジャズイベントに触れること

で関心を持ち、ビッグバンドに参加するようになるなど、将来のジャズ文化の継承にもつながっていると思っています。

内田 岡崎市でも次世代への育成事業として市内の小中学校で「出前ジャズコンサート」やプロのミュージシャンがレッスンを担う「子どもジャズワークショップ」を行ってきました。

さらに、宇都宮市同様、地元で活躍するジャズバンドの育成を目的として、「りぶらジャズオーケストラ Jr.岡崎 Branch」を結成し、毎年、定期コンサートを開催しています。参加する子どもたちの中には楽器未経験者もいるようですが、優秀な指導者の存在もあり、息をのむほど見事な演奏を披露してくれます。

伏見 現在、枚方市では老朽化に伴い建て替えを行っている総合文化芸術センターの令和3年度の開館を機に、市民の芸術文化に触れる機会を増やすため「アウトリーチ活動」に力を入れていこうと考えています。ジャズはその有効なコンテンツでもあるので、さらなる活用を図っていききたいですね。

伊東 被災地の復興に向けて文化芸術が果たすべき役割は極めて大きいと思います。市民のジャズ演奏発表の場でもある「くらしきビッグバンドフェスティバル」は、平成20年(第11回)から真備地区の文化ホール「マービーふれあいセンター」をメイン会場として開催してきました。昨年の豪雨災害により甚大な被害を受け、まだ復旧に向けた準備の段階ですが、ぜひ再来年は同センターでビッグバンドフェスティバルを再開したい。そして、復興のシンボルとして、住民の元気を全国に発信したいと思います。

細野 本日各市長からお話をお聞きして、人材

のネットワークの重要性と同時に官民の役割分担の大切さがよく分かりました。人材育成や掘り起こしが、事業の持続可能性にもつながるというお話も出ましたが、これはあらゆる協働事業に共通する教訓だと思います。

また、ジャズをはじめとする文化芸術は、地域の心をつなぐ効果もあります。ぜひ倉敷市では復興のシンボルとして、またほかの都市でも音楽の力を存分に生かして、文化の香るまちづくりを進めていただきたいと思っています。本日はどうもありがとうございました。

(令和元年6月12日、全国都市会館にて開催)

本コーナーは隔月掲載となります。次回は9月号に掲載予定です。



細野 助博
中央大学名誉教授

